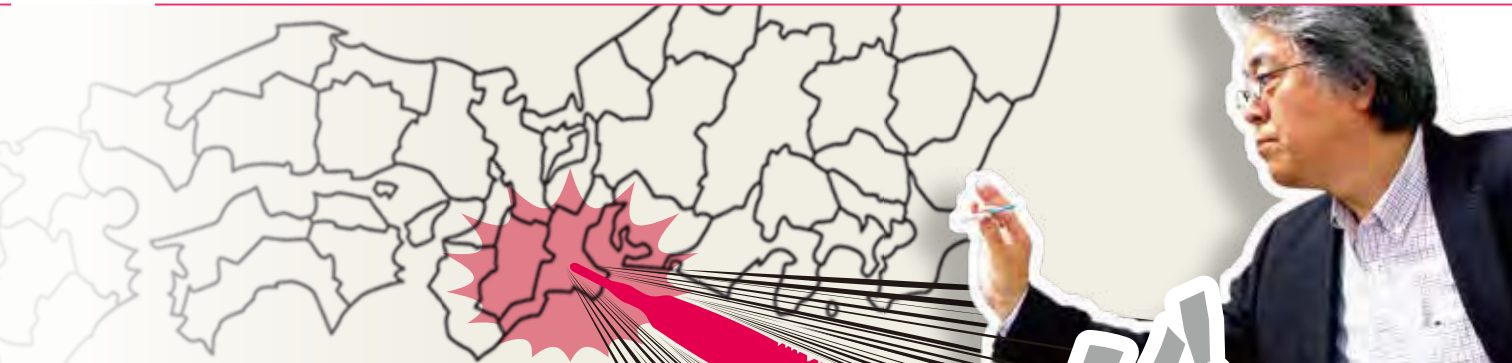


編集主幹が行く ダーツの旅 Leave the destination to darts 第28回



「ダーツの旅」のバックナンバーはコチラ

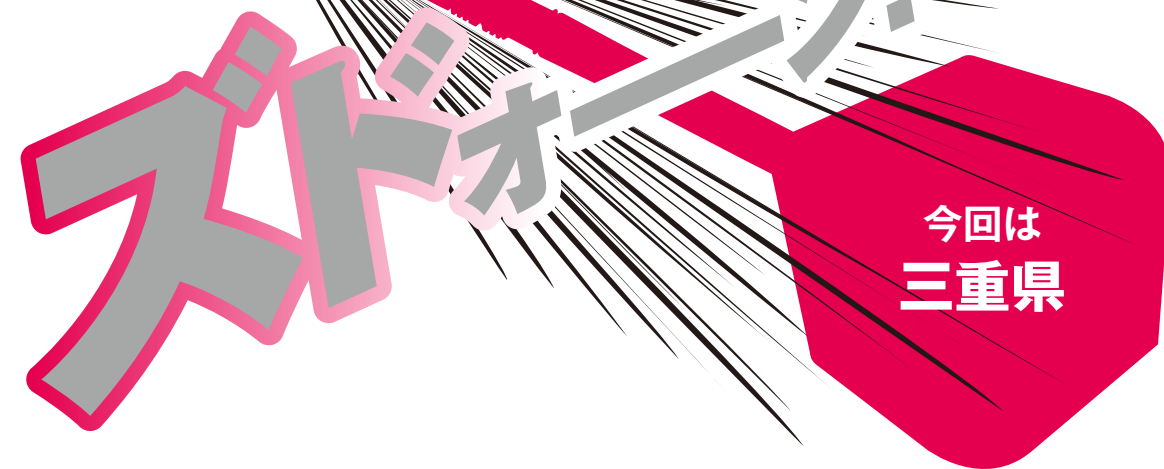


本紙編集主幹 ちば せいいち 千葉 誠一

eisu group

COO 伊藤奈緒

人生100年時代の教育ニーズにどう応えるのか?!



本紙編集主幹の千葉誠一が地域ごとの私塾事情を探るため、ダーツが刺さった地域へ赴きます。各地域で活躍を続ける塾や、珍しい取り組みを行っている塾に取材を敢行！ローカルな運営法の中に、塾で生かせるヒントがある!?

1965年に三重県鈴鹿市で創立された三重県のeisu groupは現在、三重県・東京都・愛知県・静岡県 の4都県に校舎展開している大手塾。創立以来、「業界のカリスマ」と呼ばれる山本千秋氏が代表だが、数年前から伊藤奈緒氏がCOOとして塾部門の運営全般に携わっている。今回は、同社の現状と今後の方向性を主体に、伊藤奈緒氏に取材した。



千葉:展開地域において、最近特に顕著な傾向はありますか?
伊藤:私見では、三重県は全国のエデュケーションの縮図であり、指導現場では少子化の影響が顕著に現れています。たとえば、県内の中学受験では一部を除いて事実上の全入状態、公立高校受験では実質倍率が1.09と、欲を出さなければほぼ全員が進学できる状況です。この結果、生徒たちの間に競争原理が働きにくくなり、進学校といえども学校内・学年内での学力格差が露骨に目立つようになってきました。以前は、入学時は成績下位でも、そこから猛烈に努力して一発逆転で難関校に合格するケースがそれなりにあったのですが、そういう垂直流動性がほとんど見られなくなっているのです。これなどは、地方の教育現場が共通に抱える構造的な問題だと思います。

千葉:三重県立高校の学区はどうなっていますか?やはり同様の問題が見られるのでしょうか?
伊藤:北部・中部・南部の三つの学区に分かれていますが、経済的に発展し教育熱も高い北部と、他2エリアとの格差は歴然です。当社は今後も、地方特有の教育問題と向き合い、それぞれのエリアの特性を考慮しつつ指導に取り組んでいきたいと思っています。

●校舎設置場所(2019年3月現在)

	三重県	愛知県	静岡県	東京都
eisu小中部	32	5	1	5
eisu高校部	15	5	1	5
nice	8			
個別指導E・MEG	6			
個別指導T・MEG				5

※複数ブランド・複数棟・関連施設に展開している校舎がある。

2016年から特に力を注ぐ啓蒙活動

千葉:2020年を目処とした教育改革への対応が大変だと思いますが、御社ではどのような対応をしておられるのでしょうか? また、新規開校や新規講座などがあれば教えてください。
伊藤:当社では、教育改革が世間で話題になり始めたごく初期、2016年からずっと継続して、「高大接続」やこれからの時代に求められる真の学力をテーマに、

積極的な啓蒙活動を行ってきました。具体的には、在籍生ご家庭への説明会や一般の方を対象としたセミナーを、対象生徒の学年に合わせて様々な時期に開催しています。

また新規の試みとしては、既存のコースに「思考力・判断力・表現力」を養成する時間を設けたり、セイン英語ジムをリニューアルして実践英語学習を強化したりするなど、教育環境の変貌に適應する努力を絶えず続けています。本格的な国語的読解力や数学的思考力、そして英検・GTECなど民間資格にも通用する英語4技能など、時代の変化に合わせて学びの中身も変えていきたいと考えています。

千葉:教育改革とは別に学びの中身が変わるといのはいろんな方が書いていますね。

伊藤:このテーマについてはいろんな方が発信し、沢山の情報が世に氾濫していますが、それを受け取る側が読解し切れずに混乱してしまい、体系的にインプットできなくなっている状況が生まれているように思います。どなたか、信頼できる啓蒙的な教育書を出されたいのに……そうだ、千葉さんこそ適役ではないですか!?(笑)

千葉:機会があれば、ぜひがんばってみます(笑)教育改革への対応で、塾の教育が質の低下を招いてはいけないですね。あくまでも主役は生徒ですし……。

伊藤:現在進行している教育の変化を表面だけ追いかけていると、つじつまが合にくい情報が溢れている、中には本格的な学力の育成を軽視したり、塾の役割を否定したりする極端な論調も混ざってしまうようです。膨大な情報を取捨選択し、本質を突いた正しい情報によって生徒・保護者を啓蒙していく。私たち民間教育に関わる者は、立場を超えてそういう努力を重ね、教育の市場を良い方向に盛り上げていく必要があると思います。



人生100年時代に対応した教育ニーズを捉えたい

千葉:教育AI/ICT時代に入し、教育ニーズも変わってきていると思います。それについてはどうお考えですか? またその対応はどのようなのでしょうか?

伊藤:いろんな方がAIについて書かれていますが、私は「AIが古い教育を壊しはじめています」と感じます。オックスフォード大学准教授であったM.オズボーン氏の「雇用の未来」では、多くの人間の仕事がAIに取られてしまう未来が予測されていますが、こうした現実、増え過ぎたといわれる大学の淘汰を促すとともに、学びの仕組みの全面的な変革を不可避にしています。

千葉:これまでの学びと違う学びとはどのようなものになるのでしょうか?

伊藤:今後は、AIに代替されにくい学力を身につけ、人間にしかできない分野で活躍できる高い能力を持った人材をどれだけ育成していけるかが勝負だと思います。実際私たちは、説明会やセミナーでそのように生徒や保護者に呼びかけています。また人生100年時代ですから、人間は例外なく、これまでよりずっと長く働き続け学び続ける必要があります。生涯教育の期間が30年も40年も延びるので、したがって、教育改革や地域的な教育ニーズに対応するだけでなく、もっと広い視野でこれからの塾の教育について考えていく必要性を私はつくづくと感じています。

特に、早期に塾で学ばせたい親のニーズにどう応えるか?

千葉:大手塾は「小中高一貫」指導のしくみ作り、中小個人は「習い事の併設」に取り組んでいるところが多いですが、御社の今後の方向性を教えてください。たとえば、プログラミング講座などが増えていますね? 御社はいかがお考えですか?

伊藤:習い事には興味がありますが、それを導入することについては慎重でありたいと思っています。プログラミング講座の受けがよいのはよくわかりますが、全ての子供が優先的に取り組むべき学びかかと問われると、少し疑問も感じます。

とはいえ、単に志望校に受ければよいという指導は

今や終わりかけているのは間違いありません。私は受験というものを、子供たちが向上心を持ち、目標に向かって努力し、生き抜く力を磨き上げていくという、人生の貴重な経験を得る場であると考えています。

「eisu55年構想」とは?

千葉:御社の広報物には「eisu55年構想」というものが掲載されていますが、それについてご説明ください。

伊藤:eisu groupは1965年の創立から2020年で55年になります。そこで、当社では「eisu55年構想」のミッションとして三つの目標を掲げました。それが「学習環境 日本一」「能動学習 日本一」「実践英語 日本一」です。これらの目標は、外部に向けてのものである以上に、私たち内部の社員に向けられたものです。日本一にふさわしい自覚をもって現場に立ち、という決意の表れです。私たちはこれを仕事の軸に据えて、「個への対応」を指導理念に小中高一貫指導体制で、社会に貢献できる自立した人財の育成に取り組んでいます。



千葉:具体的に何か仕事の指針のようなものはありますか?

伊藤:人的なものも含めて資源を最も強いところに集中させて、専門性も含めて掘り下げていき、私たち一人ひとりの生産性を高めていく努力が不可欠だと思います。

千葉:そうすると、より質の高い人材の確保も不可欠ですね?

伊藤:はい、成長を続ける子どもたちにふさわしいよう、私たちも研鑽を積み重ねなければいけません。当社では、日本教育士検定や全国名教師授業大会など外部機会も利用して、社員の研鑽を行っています。

これから「就学前教育」と「大人の教育」に取り組んでみたい

千葉:伊藤さん個人としての、これからの大きな目標あるいは夢について教えてください。

伊藤:個人的な希望としては、「就学前教育」に取り組んでみたいですね。難関大学受験を視野に考えますと、学校に通う前から学びの習慣を身につけたり、能力開発をしたりしていかないと上位を目指すのは困難になります。教育投資の効率も、子供が幼ければ幼いほど高いと言われます。この期間に質の高い教育を提供するサービスをぜひ追求してみたいですね。

千葉:最近の受験では短期決戦の傾向がありますが、それではいけないのですか?

伊藤:目の前の点取りゲームに勝つためならばそれでいいのかも知れませんが、子供たちは将来の日本を支える世の「宝」です。そうした素晴らしい可能性の開花に塾が関わるためにも、就学前教育の必要性を強く感じています。

千葉:それ以外に目指したいものはありますか?

伊藤:少子高齢化ですから、学齢とか子どもだけの教育ではなく、「大人の教育」にも取り組んでみたいと希望しています。人生100年時代ですから、これまでの人生60年時代の感覚で教育を考えてはいけないと思うのです。30~40歳の大人の教育が何かできたらいいなと思っています。

(2019年3月7日、三重県四日市市、eisu四日市駅東口校にて取材)



1都3県において小中高一貫指導の塾を展開

千葉:現状の規模的なものと最新の決算内容について教えてください。

伊藤:2018年5月期決算で、売上81億4700万円(株式会社鈴鹿英数学院、株式会社えいすう総研、株式会社えいすうメディア、株式会社エイスウ4社の合算値)、経常利益9億1400万円で、前年対比で少しアップしています。生徒数は少し伸びて3万400名(グループ全体)です。

校舎設置場所は、別途図をご覧ください。小中高一貫指導をモットーに、4都県それぞれ最適な校舎展開を目指しています。